

明治安田生命と島根県との包括連携協定に基づく 認知症に関する意識調査

明治安田生命



1

島根県健康福祉部 高齢者福祉課
地域包括ケア推進室



「しまねの地域包括ケア」ポータルサイト開設

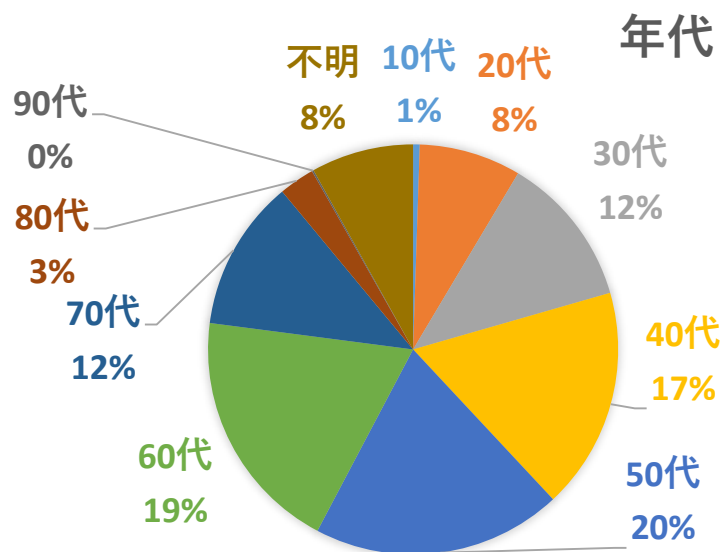
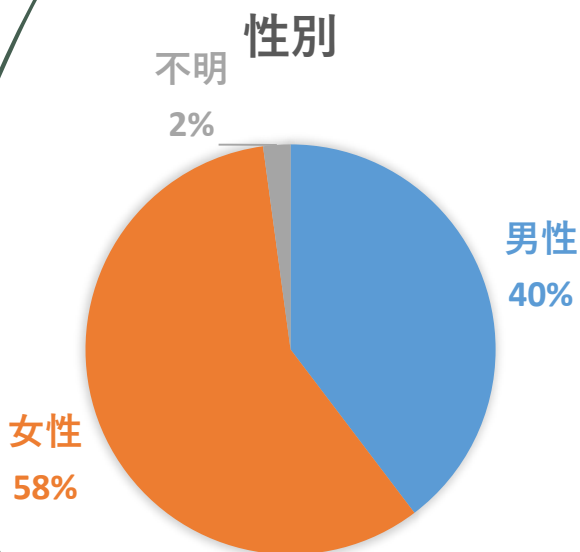


QRコード
携帯電話で
ホームページに
アクセスできます。

- 1. 調査目的** 県民の認知症に対する意識の現状把握と、それを踏まえた認知施策の検討
- 2. 調査時期** 令和2年11月26日～令和3年2月22日
- 3. 調査方法** 明治安田生命社員による調査票の持参・回収
- 4. 調査対象** 明治安田生命の顧客及び顧客候補
- 5. 回答者数** 2, 886人

6. 回答者の概要

- 男性:1,145人 女性:1,679人 不明:62人
- 10代: 15人 20代: 232人 30代: 346人
40代: 505人 50代: 571人 60代: 558人
70代: 344人 80代: 81人 90代: 4人 不明: 230人

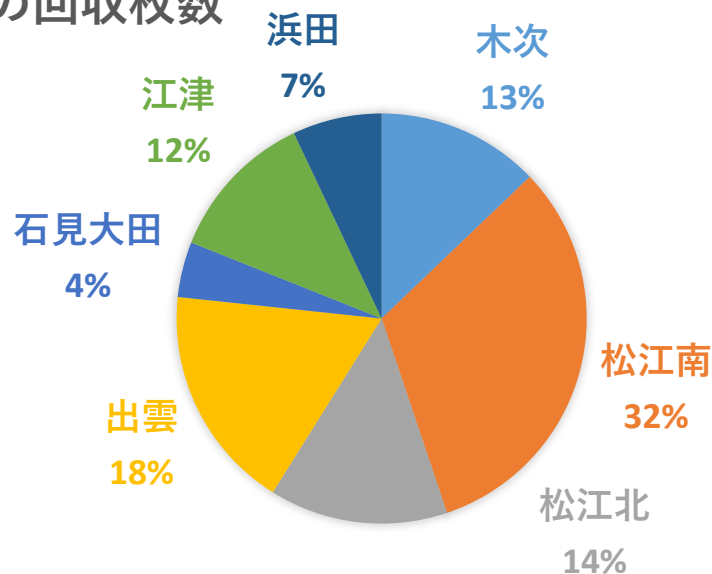


6. 回答者の概要

● 営業拠点ごとの回答者数

木次:371人 松江南: 923人 松江北:406人
 出雲:513人 石見大田:126人 江津: 344人
 浜田:203人

拠点ごとの回収枚数



営業拠点の内訳

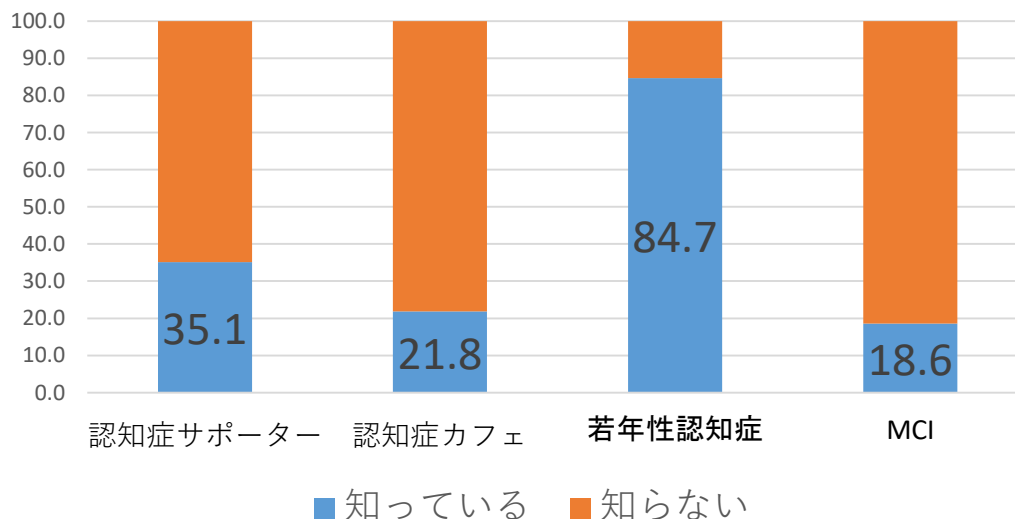
- 松江南：松江市内南東部（旧八雲村・玉湯町・宍道町含む）、安来市
- 松江北：松江市内北西部(旧八束町・島根町・美保関町含む)、隠岐郡
- 木次：雲南市、奥出雲町、飯南町
- 出雲：出雲市
- 石見大田：大田市
- 江津：江津市、邑智郡
- 浜田：浜田市、益田市、鹿足郡

認知症に関する、次の言葉をご存知ですか？

知っていると答えた人数

① 認知症サポーター	1,014人	(35.1%)
② 認知症カフェ (オレンジカフェ)	630人	(21.8%)
③ 若年性認知症	2,443人	(84.7%)
④ M C I	473人	(18.6%)

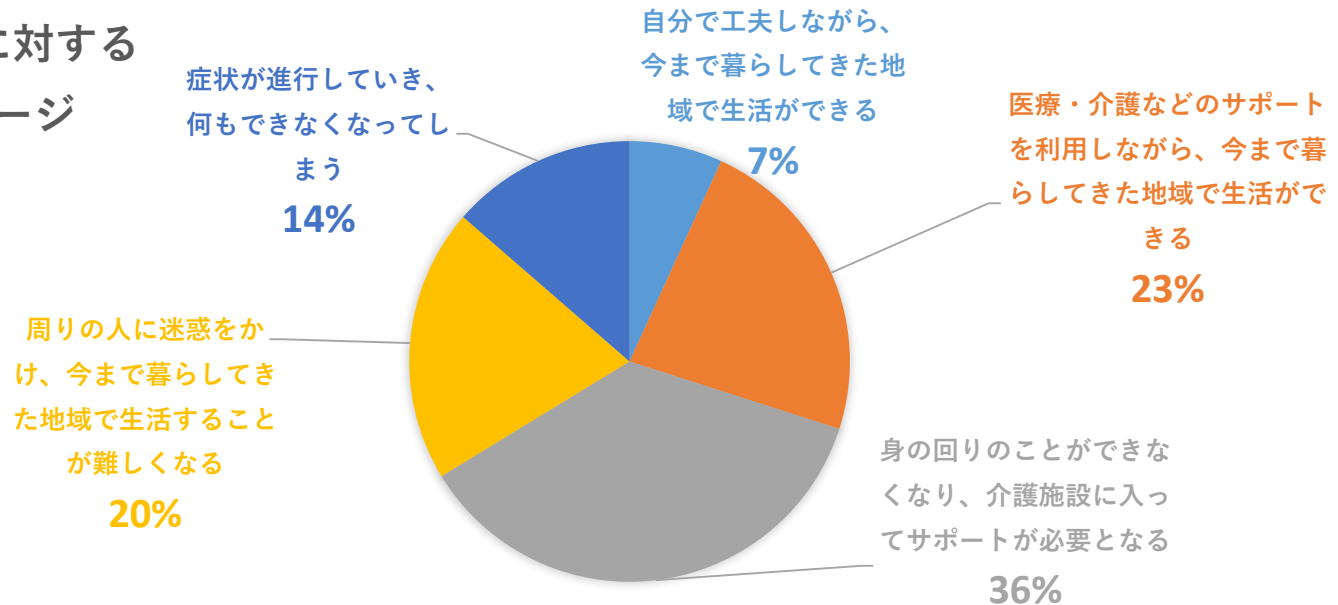
認知症に関する言葉を知っているか (%)



認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？ 1つだけお答えください

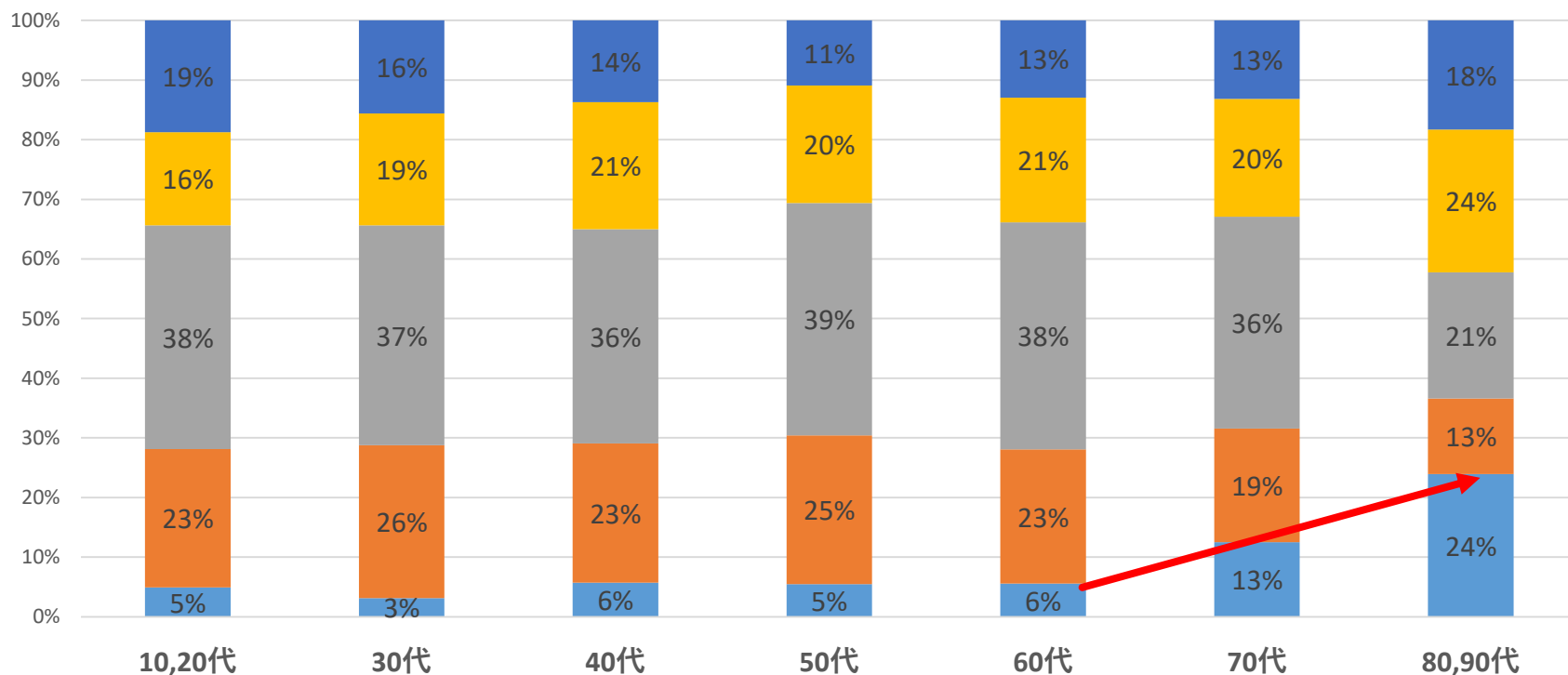
□ 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	176人
□ 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	596人
□ 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる	936人
□ 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	518人
□ 症状が進行していき、何もできなくなってしまう	351人

認知症に対する イメージ



認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？ 1つだけお答えください

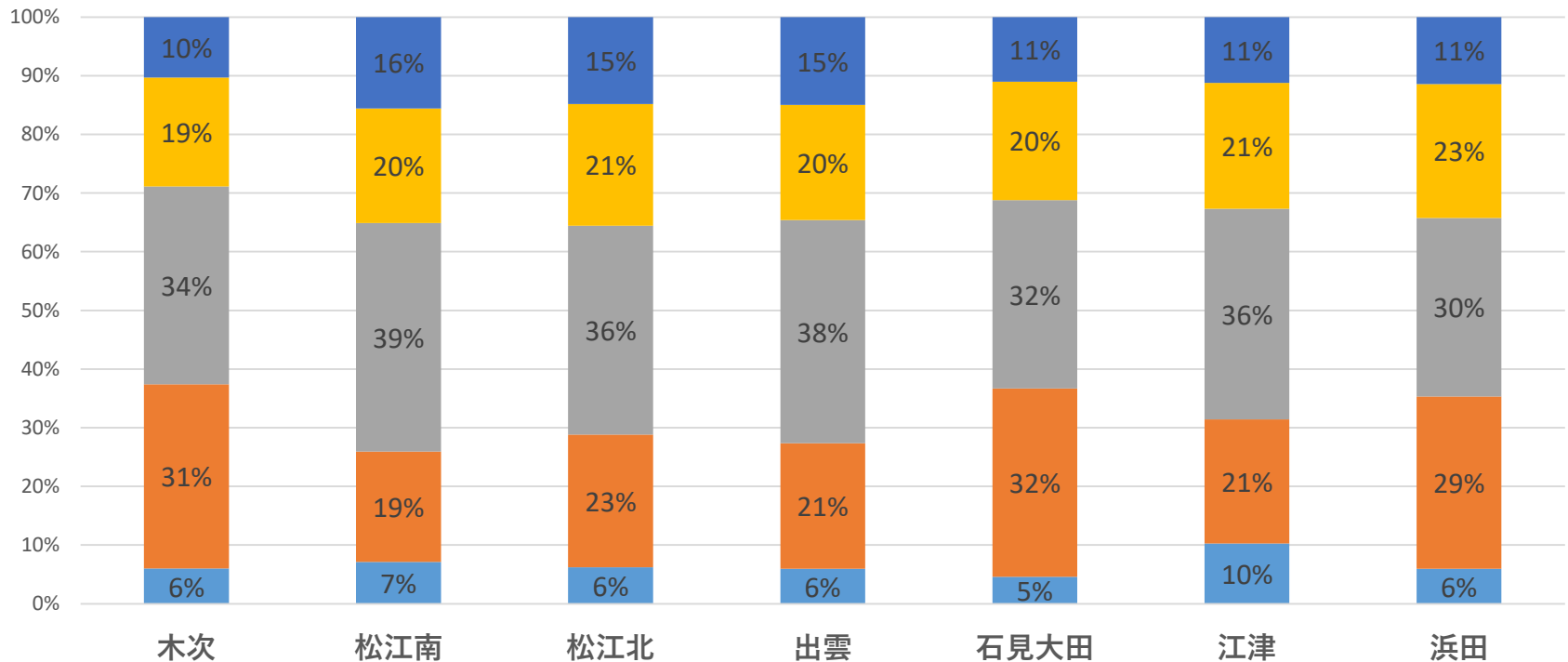
認知症に対するイメージ（年代別）



- 症状が進行していき、何もできなくなってしまう
- 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる
- 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる
- 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる
- 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる

認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？ 1つだけお答えください

認知症に対するイメージ（営業拠点別）

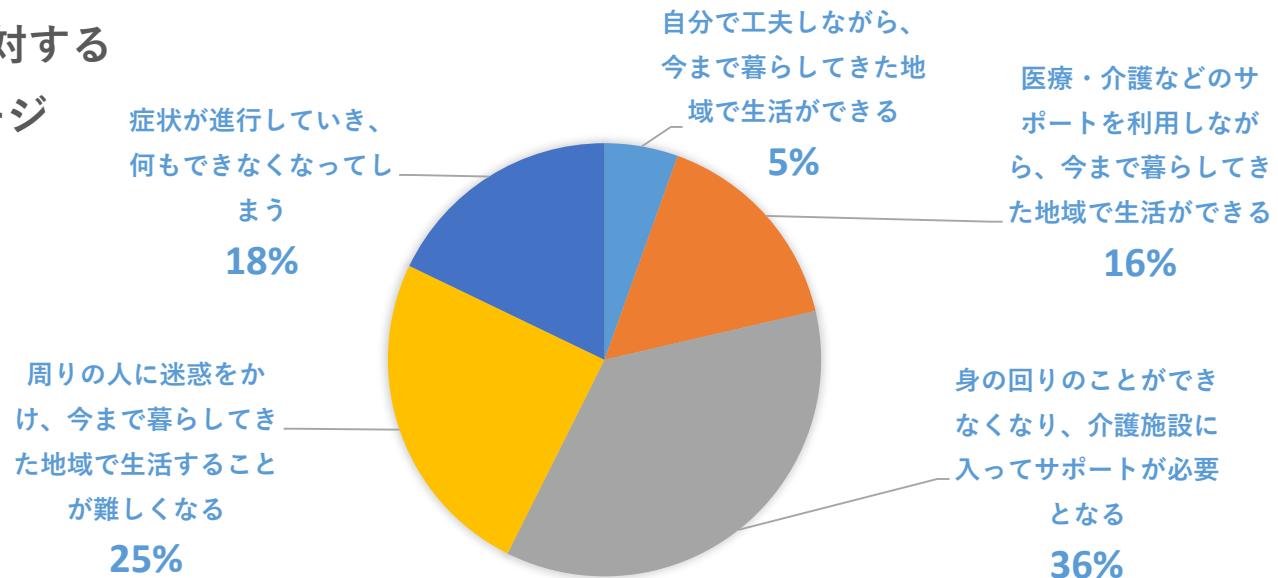


- 症状が進行していき、何もできなくなってしまう
- 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる
- 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる
- 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる
- 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる

認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？ 1つだけお答えください

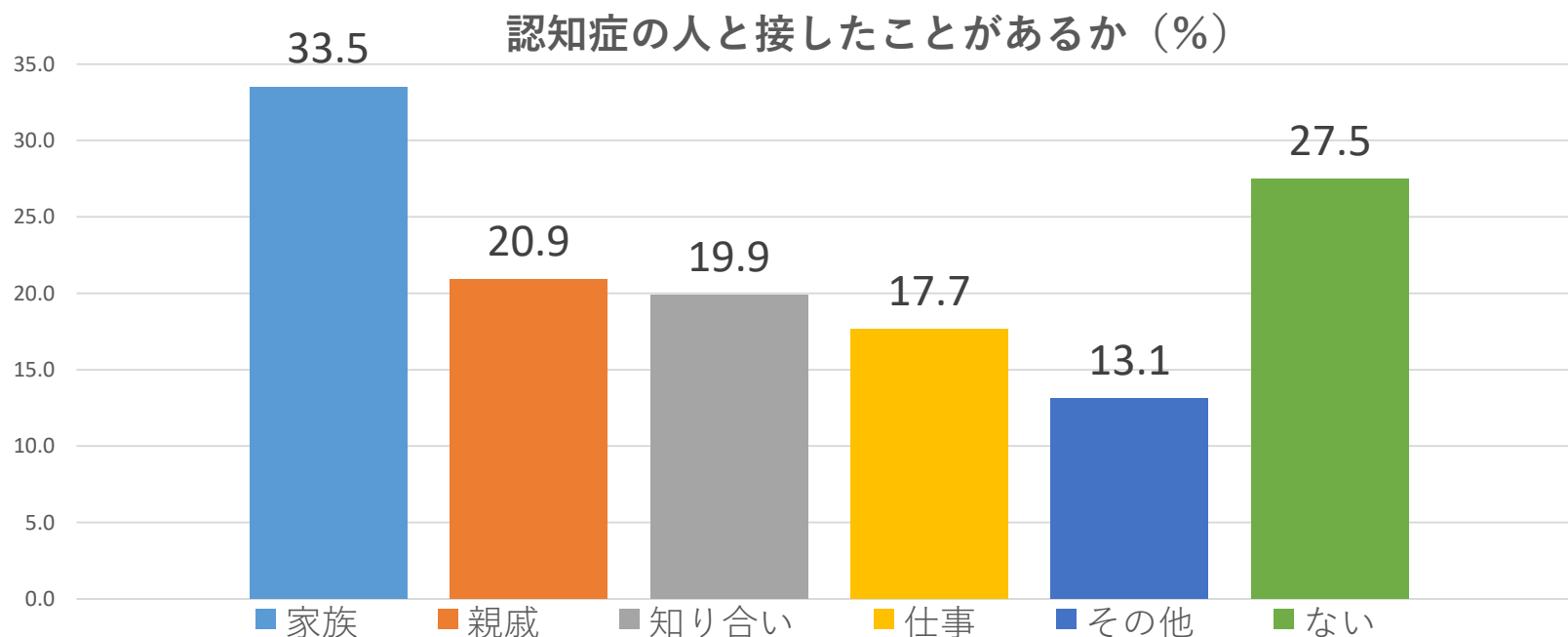
□ 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	39人
□ 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	113人
□ 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる	256人
□ 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	176人
□ 症状が進行していき、何もできなくなってしまう	127人

認知症に対する イメージ



今までに認知症の人と接したことがありますか？ (複数回答可)

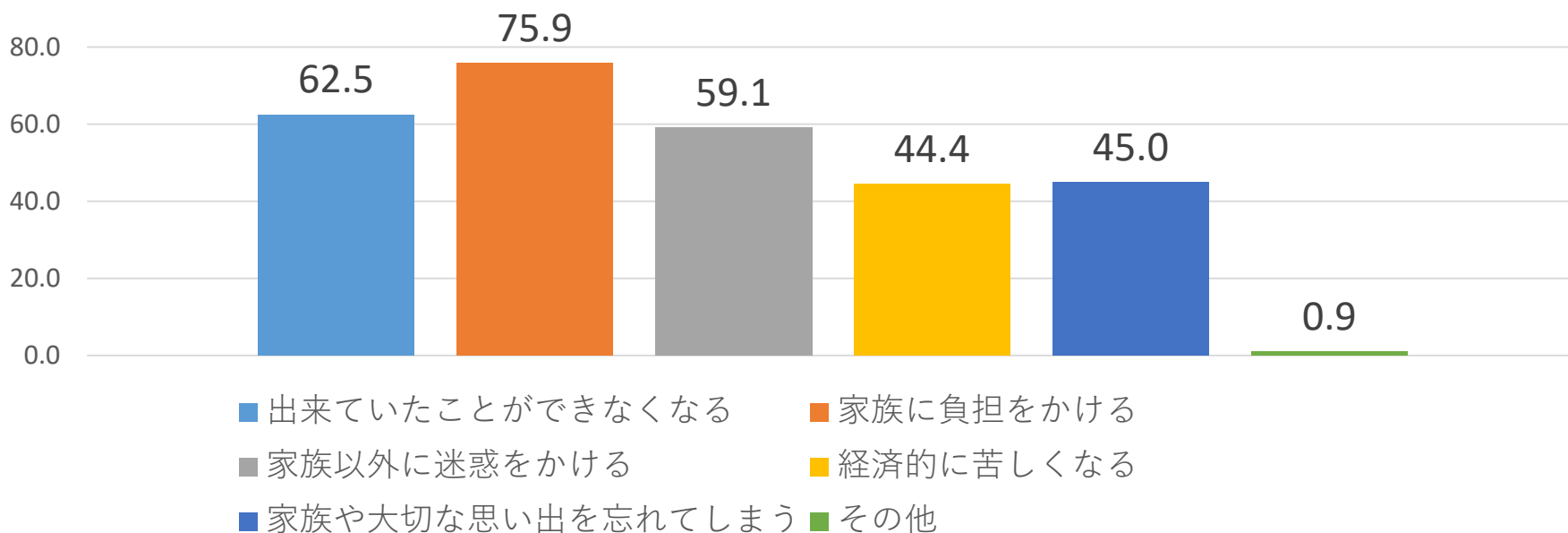
□ 家族の中に認知症の人がいる(いた)	967人 (33.5%)
□ 親戚の中に認知症の人がいる(いた)	604人 (20.9%)
□ 知り合いや友人に認知症の人がいる(いた)	573人 (19.9%)
□ 仕事を通じて接したことがある	510人 (17.7%)
□ その他の場面で接したことがある	378人 (13.1%)
□ 接したことがない	793人 (27.5%)



ご自身が認知症になったら、どのようなことを不安に感じるとお思いますか？(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 買い物や車の運転など、これまで出来ていたことができなくなるのではないか	1,803人
<input type="checkbox"/> 家族に身体的・精神的な負担をかけるのではないか	2,190人
<input type="checkbox"/> 家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか	1,706人
<input type="checkbox"/> 経済的に苦しくなるのではないか	1,282人
<input type="checkbox"/> 家族や、大切な思い出を忘れてしまうのではないか	1,299人
<input type="checkbox"/> その他	27人

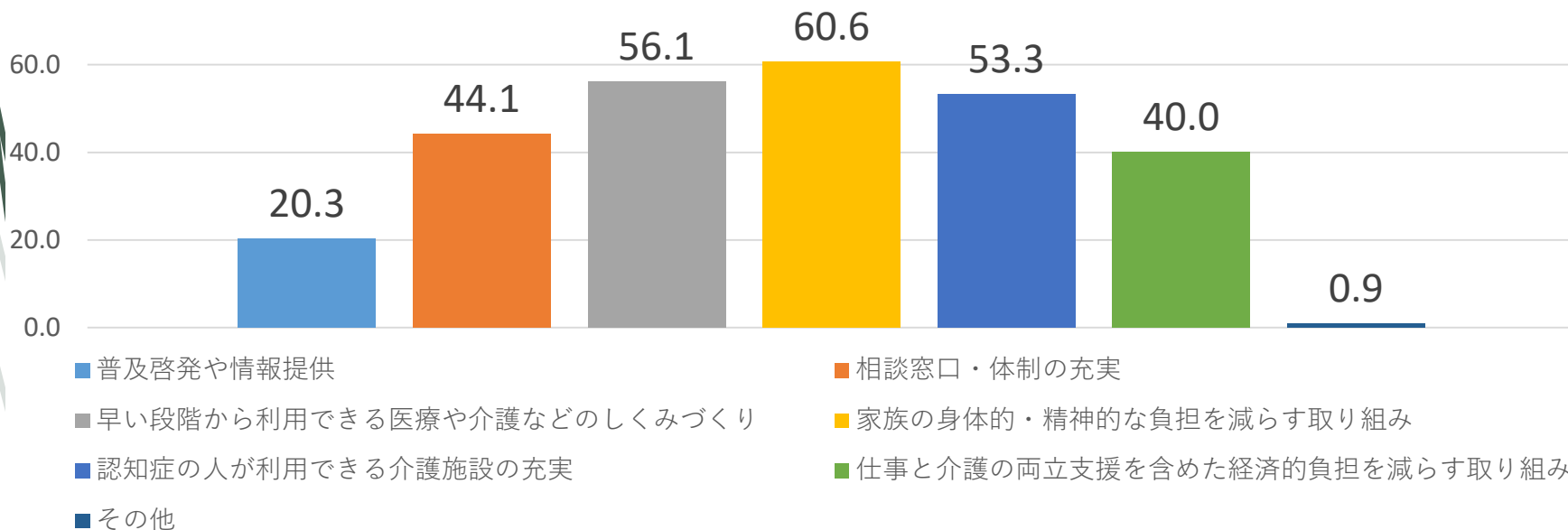
認知症になったら、どんなことが不安か (%)



認知症について県や市町村がどのようなことに重点をおくべきだと思いますか？(複数回答可)

□ 普及啓発や情報提供	587人
□ 相談窓口・体制の充実	1,274人
□ 早い段階から利用できる医療や介護などのしくみづくり	1,618人
□ 家族の身体的・精神的な負担を減らす取り組み	1,750人
□ 認知症の人が利用できる介護施設の充実	1,538人
□ 仕事と介護の両立支援を含めた経済的負担を減らす取り組み	1,155人
□ その他	25人

県や市町村が重点をおくべきこと (%)



- ◆ 県内の認知症サポーターは89,680人（令和2年12月末時点）、認知症カフェは49カ所（令和2年12月末時点）あるものの、それぞれの認知度は35.1%、21.8%に留まった。MCI（軽度認知障害）の認知度は18.6%。
- ◆ 認知症に対するイメージは、「今まで暮らしてきた地域で生活ができる」と答えた割合は30%に留まった。これは、内閣府が平成27年度に実施した「認知症に関する世論調査」における同内容の設問に比べ、約10%低い。
- ◆ 70代から90代では、「自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活できる」と答えた割合が高くなった。
- ◆ 認知症の人と接したことがないと答えた割合は27.5%で上記の内閣府調査と比べ約16%低い（県内では認知症の人と接したことがある人の割合が高い）。

- ◆ 「認知症の人と接したことがない」と答えた人に限ると、「今まで暮らしてきた地域で生活ができる」と答えた割合は**21%に留まる**。
- ◆ 「認知症になったら、どんなことが不安か」については「**家族に負担をかける**」が**最多の75.9%**だった。
- ◆ 「県や市町村が重点をおくべきこと」についても、「**家族の身体的・精神的な負担を減らす取り組み**」が**最多の60.6%**だった。
- ◆ 以上のことから、認知症に対する普及啓発や情報提供を引き続き実施すると同時に、相談窓口の周知や医療・介護の連携体制整備など、本人・家族の不安や負担を軽減する施策が求められる。
- ◆ なお、本調査は毎年継続し、**県民の認知症に対する意識がどう経年変化するか把握する予定**である。